

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月26日現在

機関番号：12701
 研究種目：基盤研究(B)（一般）
 研究期間：2016～2018
 課題番号：16H03326
 研究課題名（和文）ダブルケア責任の世代間ジェンダー比較分析：自治型・包摂型の地域ケアシステム構想

 研究課題名（英文）Double Responsibilities of Care in East Asia: Investigating the Multi-dimensional and Intergenerational Nature of Care

 研究代表者
 相馬 直子（SOMA, Naoko）

 横浜国立大学・大学院国際社会科学研究院・教授

 研究者番号：70452050
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,400,000円

研究成果の概要（和文）：ダブルケアは狭義と広義の二つの意味で使われている。まず狭義のダブルケアとは、育児と介護の同時進行という意味である。高齢化・晩婚化・晩産化の中で、育児と介護を経験する時差が縮まってきた。一方、広義のダブルケアとは「多重ケア」である。家族や親族などの親密な関係では、多重のケア関係があり、そこでは課題が複合化している。

本研究は、狭義のダブルケアに焦点をあて、ダブルケアラーの実態と、子育て支援策と高齢者施策の実質的連携が依然として課題となっている実態を明らかにした。各地域の特性を生かした「自治型・包摂型の地域ケアシステム」が求められるが、そこでは当事者のダブルケア認知が鍵であることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

参議院内閣委員会、北海道庁、埼玉県、さいたま市、京都府、神奈川県川崎市などの行政主催のシンポジウムや、市民団体主催（岩手、横浜、仙台、川崎、香川等）の研修会にて発表を行い、地域包括ケアシステム構築における横断的な支援構築のための実態調査・地域的対話・地域内のネットワーク構築をうながした。また韓国社会政策学会、韓国女性政策研究院、ヨーロッパのケア政策研究者が集まる「Transforming Care Conference」などの報告を通じて、ダブルケアの国際比較研究を発展させるための重要なインプットを得ることができ、2020年1月刊行予定の大原社会問題研究所雑誌「ダブルケア特集号」にも反映する。

研究成果の概要（英文）：The double responsibilities of elderly care and childcare can be defined as two definitions. The core definition means simultaneous care of children and elderly. With the aging, late marriage and late birth, the gap between experiencing childcare and elderly care has narrowed. On the other hand, in a broad sense is "multiple care". There are multiple care relationships in close relationships such as family and relatives.

This research focuses on double responsibilities of care in a narrow sense, and has clarified the actual conditions of "double carers" and the actual conditions in which the actual cooperation between child care policy and elderly care policy remains an issue. There is a need for "autonomous / inclusive community care system" in each local society, but to establish the system the key issue is how "double cares" recognize their own situation and care responsibilities and burdens.

研究分野：社会政策・福祉社会学

キーワード：ダブルケア 地域包括ケアシステム ジェンダー 社会政策 少子高齢化 社会福祉 子育て支援 国際比較

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

東アジアでは依然として、晩産化・超少子化・高齢化の同時進行が続いている。マクロ的には、少ない生産年齢人口でより多くの老年人口を扶養し、ミクロ的には女性の晩婚化により出産年齢が高齢化し、高齢者ケアと子どものケアの同時進行の増加が予測される。仕事と子育ての両立、あるいは仕事と介護の両立が問題とされてきたが、超少子化と高齢化が同時進行する東アジアでは、ダブルケア（介護・子育て）と仕事の両立問題という、新たな形の「ケアの社会化問題」に直面している。

2. 研究の目的

本研究は、晩産化・超少子化・高齢化が同時進行する東アジア社会における「介護と育児のダブルケア責任」の構造把握と、少子高齢化と財政難に対応した「自治型・包摂型の地域ケアシステム」構想への課題を、東アジアの比較視点で解明する。さらに、子育て・介護の縦割り行政を超える、地域ケアシステムの変容をもたらす取組みと変革主体の形成のあり方を分析し、多主体が連携した「自治型・包摂型の地域ケアシステム」を理論的・実証的に検討する。

3. 研究の方法

研究方法は、量的・質的調査による実態調査と、制度分析である。東アジアやヨーロッパの国際学会での成果報告を必須とし、共同研究者とともに学術雑誌の特集号として出版計画を推進した。

晩産化・超少子化・高齢化が同時進行する東アジア社会において、介護と育児のダブルケア分担という新たな社会的リスクを、中高年世代（団塊世代）とサンドイッチ世代（団塊ジュニア世代）の世代間のケア連関という視点から、構造的に実態を把握する（=>分析課題1）。そして、ダブルケアをめぐる地域的な家族支援政策可能性とその質の担保のための規制的政策の制度分析（=>分析課題2）を行った。

4. 研究成果

（1）研究の主な成果

ダブルケアは狭義と広義の二つの意味で使われている。まず、狭義のダブルケアとは、育児と介護の同時進行という意味である。高齢化・晩婚化・晩産化の中で、育児と介護を経験する時差が縮まってきた。一方、広義のダブルケアとは、「多重ケア」である。広い意味で考えると、家族や親族などの親密な関係では、多重のケア関係があり、そこでは課題が複合化している。本研究は、狭義のダブルケアに焦点をあてることで、そのダブルケアラーの実態と今後の政策課題を明らかにした。

量的・質的調査を通じて、ダブルケアラーの交渉過程やその背景にある規範・資源・制度の影響を解明してきた。全国ダブルケアラー1,000名への量的調査によれば、メインケアラーになっていく過程ではっきりとジェンダー差が出ていた。すなわち、男性メインケアラーは自らすすんで関わりたい傾向があり、自ら「選択」しているのに対し、女性メインケアラーは他にやる人がいないから関わっているという傾向があった。男性と女性では、子育てと介護をめぐるケアの責任の配分のあり方、ケアの内容や頻度、社会規範が異なっているために、メインのダブルケアラーになる「意思」「選択」にジェンダー差があらわれたと考えられる。また、多くのダ

ブルケアラーは、「育児が先のダブルケアラー」であったものの、「介護が先のダブルケアラー」が30代ではすでに20%と2割いる。晩婚化・晩産化が一層すすむと、「先に介護で後に出産・子育て」というダブルケアラーが増えていくことも予測される。さらに、ダブルケアと仕事の両立実態についてである。ダブルケアを理由に仕事をやめたことがある女性は、「職場が両立しにくい環境」「ダブルケアという問題が認知されていない」という回答が男性よりも顕著に高かった。ダブルケア視点からダイバーシティ(多様性)の尊重を一段とすすめていく重要性が、本研究から浮きぼりになった。

東アジアの比較によると、特に韓国では、中高年世代の女性の追加の孫ケアは、社会的ケア政策が不十分な中で成人した子どもの経済活動を可能にする土台となっており、成人した子ども世代の労働権は、中高年世代のケアを拒否する権利の放棄によって保障されていることが分かった。

男性・女性ダブルケアラーとも、介護・保育サービスの拡充やダブルケア視点からの入所基準の配慮を切に望んでいる。また、介護も育児もあわせて相談できる行政窓口の設置、ダブルケア経験者が地域で直接相談にのってくれる場、ダブルケア当事者が地域でつながる場を望んでいる。現在、各地でダブルケア支援が拡がり、自治体においてダブルケア実態調査、ハンドブックの配布、勉強会や研修会が広がっている。各地域の特性を生かした、多主体連携の「自治型・包摂型の地域ケアシステム」が求められるものの、子育て支援策と高齢者施策の実質的連携が依然として課題となっている実態と、当事者のダブルケア認知が「自治型・包摂型の地域ケアシステム」の鍵であることが明らかになった。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

国内では、ダブルケア関連のシンポジウム開催や勉強会、研修会を通じて、調査結果を幅広く社会へ発信し、当事者や支援者のネットワーキングの場ともなった。期間内で主要なシンポジウムや勉強会を積極的に開催し、研究の社会的・地域的還元に努めた。具体的には、参議院内閣委員会、北海道庁、埼玉県、さいたま市、京都府、神奈川県川崎市などの行政主催のシンポジウムや、市民団体主催(岩手、横浜、仙台、川崎、香川等)の研修会にて発表を行った。本研究プロジェクトでは、多主体連携の「自治型・包摂型の地域ケアシステム」を提言として出しており、シンポジウムや研究会を通じて対話が深まる機会となった。地域包括ケアシステム構築における横断的な支援構築のための実態調査・地域的対話・地域内のネットワーク構築をうながした。

東アジアにおける学会発表において、東アジアにおけるダブルケアの国際比較研究を発展させるための重要なインプットを得ることができた。具体的には、韓国社会政策学会と韓国女性政策研究院における発表である。前者の国際学会では、韓国における共同研究者とともに、日韓比較につながる研究発表を行った。後者は特に日本の研究成果を発表し、ケアの複合化に関する貴重なコメントを得た。ヨーロッパでの国際学会での報告も積極的に行い、国際的なケア政策研究者が集まる“Transforming Care Conference”やヨーロッパ社会政策学会の報告を通じて、ダブルケアの国際比較研究を発展させるための重要なインプットを得ることができた。2020年1月刊行予定の大原社会問題研究所雑誌「ダブルケア特集号」にも反映させている。

(3) 今後の展望

3か年のダブルケア研究の成果報告として、学術雑誌（大原社会問題研究所雑誌）に特集号が2020年1月に予定されている。国際比較の論文が1本、韓国の中高年ダブルケア負担に関する論文が1本、日本に関する論文が3本の計5本の企画となる。また、一般向けのダブルケアに関する新書が2019年度に刊行予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計15件)

相馬直子(2019)「はじめに」『子育て支援の効果の見える化と可能性～横浜市3歳児検診における養育者調査及びインタビュー調査報告書～』生協総研レポート No.89、p2-3、査読無

相馬直子(2019)「ダブルケアが負担にならない社会へ」『科研費 NEWS』2018年度 VOL.3、p6、査読無 (https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/22_letter/data/news_2018_vol3/news_2018_vol3.pdf)

相馬直子(2018)「論点 ダブルケア支援の広がり」と課題」『月刊福祉』2018年8月号、p48-49、査読無

相馬直子(2017)「項目：ダブルケア」『ジャパンナレッジ lib (日本大百科全書)』(WEB) 査読無 (<https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=1001000329559>)

相馬直子(2017)「ダブルケア(ケアの複合化)」『都市計画』330号、p40-45、査読無

相馬直子・山下順子(2017)「ダブルケア(ケアの複合化)」『医療と社会』27(1)、p63-75、査読無

相馬直子(2017)「ダブルケア(ケアの複合化)と自治型・包摂型・多世代型地域ケアシステム」『月刊ガバナンス』第190号、p20-23、査読無

相馬直子・堀聡子(2016)「子育て支援労働をつうじた女性の主体化——社会的・経済的・政策的エンパワメントの諸相——」『社会政策』8(2)、p50-67、査読無

相馬直子・松木洋人・井上清美・橋本りえ(2016)「小特集に寄せて：子育て支援労働と女性のエンパワメントをめぐる論点」『社会政策』8(2)、p46-49、査読無

相馬直子(2016)「韓国の低出産・高齢化対策：ダブルケア時代への包摂的な少子高齢化対策を考える」『人口問題研究』72(3)、P185-208、査読無

相馬直子(2016)「ダブルケア(ケアの複合化)を考える」『月刊福祉』2016年9月号、p52-53、査読無

相馬直子(2016)「ダブルケア時代に求められる就業環境の整備と社員の意識改革」Jin - Jour 「Point of view」第68回、査読無 (https://www.rosei.jp/jinjour/article.php?entry_no=68839)

相馬直子(2016)「ダブルケア(ケアの複合化)を前提とした社会設計を」『a t プラス思想と活動』29号、p68-82、査読無

相馬直子(2016)「子ども・子育て新制度の現状と課題」『月刊自治研』58(682)、p17-23、査読無

相馬直子(2016)「第4章 多世代連帯をせまるダブルケア」日本都市センター『人口減少社会における多世代交流・共生のまちづくり』、p88-105、査読無 (<http://www.toshi.or.jp/app-def/wp/wp-content/uploads/2016/08/report161.pdf>)

〔学会発表〕(計10件)

Naoko Soma, Junko Yamashita “Social Risks for Women Providing both Childcare and Care for the Elderly” International Workshop on “Family, Social Capital and Social Security in East Asia: Quest for a Sustainable Social System” Hitotsubashi University (2019.3.16)

Naoko Soma ”Changing social care and gender : an analysis from double responsibilities of elderly care and childcare” 「国際ワークショップ 日本福祉モデル：継続性と変容性」立命館大学衣笠キャンパス (2019.2.13)

Naoko Soma “How Childcare and after-school childcare are re-institutionalized in local societies?: Dilemmas of childcare Policy in Japan” The Korean Women’s Development Institute (KWDI) 2018 Seoul Symposium on “Gender Equality and Fertility: The cases of Japan and Korea”, KWDI International Conference Hall (2018.9.20)

Naoko Soma, Junko Yamashita “Dilemma of intergenerational solidarity of multigenerational care in an era of re-familialisation and care deficit” 「2018 韓国社会政策学会春季学術大会」仁川大学 (Korea) (2018.5.25)

相馬直子 「ダブルケアの時代の家族政策：育児・介護・多重ケアの実態調査から」国立大学附置研究所・センター長会議 第三部会シンポジウム「高齢化時代の働き方・暮らし方」フクラシア東京ステーション (2017.10.20)

相馬直子 「ダブルケア問題 - 子育てと親の介護 - 」一般社団法人日本家族計画協会「平成29年度JFPA ウィークデーセミナー」保健会館新館 (2017.9.5)

Naoko Soma, Junko Yamashita (2017) “The Double Responsibilities of Care in Japan: Emerging New Social Risks for Women Providing both Childcare and care for the Elderly” 3rd Transforming Care Conference : INNOVATION AND SUSTAINABILITY, Polytechnic of Milan (2017.6.26-28)

Junko Yamashita, Naoko Soma (2017) “Balancing Motherhood and Daughterhood: Investigating the Multi-dimensional and Intergenerational Nature of Care” 50th Anniversary Conference of the Social Policy Association Social Inequalities : Research, Theory, and Policy , Durham University, UK (2017.6. 10-12)

相馬直子 「ダブルケア時代の家族政策」第 21 回厚生政策セミナー「将来世代に引き継ぐ社会と社会保障制度を考える～人口減少社会を支え続ける社会保障の挑戦～」国立社会保障・人口問題研究所、日比谷コンベンションホール (2016.12.1)

相馬直子 「日韓交流学び合いの報告」ダブルケアシンポジウム「日韓の現場から考えるダブルケア支援の課題～日本・韓国におけるダブルケアラーの支援実践者の学び合いを通じて～」横浜 YWCA (2016.10.16)

〔図書〕(計2件)

相馬直子 (2018) 「少子高齢化とダブルケア—育児と介護という二重のケアの責任をめぐって—」山田真茂瑠編著『グローバル現代社会論』文眞堂、p154-171 .

相馬直子 (2018) 「社会が溶ける? : 日韓における少子高齢化の日常化とジレンマ」若林幹夫・立岩真也・佐藤俊樹編『社会が現れるとき』東京大学出版会、p225-257.

〔その他〕

ホームページ等

<http://double-care.com/>

6 . 研究組織

(2)研究協力者

研究協力者氏名：山下 順子

ローマ字氏名：(YAMASHITA, junko)

研究協力者氏名：陳 國康

ローマ字氏名：(CHAN, K H raymond)

研究協力者氏名：王 永慈

ローマ字氏名：(WANG, kate)

研究協力者氏名：宋 多栄

ローマ字氏名：(SONG, dayoung)

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。